

「学力」「気力」「体力」の流山の教育を推進するため 学びに向かう力と自立する子どもを育む

小学6年生・中学3年生対象 全国学力・学習状況調査(国語 算数・数学 英語)の結果

<英語においても正答率で全国・県平均を全て上回る>

今年度も、文部科学省により全国の小学6年生・中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。例年おこなわれている国語と算数・数学に加えて、今年度は中学校で英語に関する調査も行われました。

国語、算数・数学においては、平均正答率が全て全国・千葉県平均を上回りました。ここ5年間の調査でも、常に全国・千葉県平均を上回っています。小・中学生の学力が高いレベルで安定していることがわかります。

英語においても、すべての領域で、平均正答率が全国・県平均を上回りました。また、記述式の問題では、県の平均を20ポイント以上も上回る正答率でした。これは、平成26年度より文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受けた、拠点校での取り組みを生かし、市内各小中学校でも「外国語活動」及び「外国語」の学習に力をいれてきた成果だと考えます。

流山市では「学びに向かう力と自立する子どもを育む」ため、学習のねらいを明確にし、「できた！わかった！」と実感できる授業づくりや、「なるほど」と、学びを深める学習形態の工夫に重点的に取り組んでいます。この取り組みが国語、算数・数学だけでなく、すべての学習で成果をあげているものととらえます。

児童・生徒に対する質問調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」

という質問で、肯定的な回答をする児童生徒の割合が、全国・千葉県平均に比べて高くなっています。

英語に関する質問調査では、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べあったりする活動が行われていたと思いますか。」

「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか。」

という質問で、肯定的な回答をする生徒の割合が、全国・千葉県平均に比べて高くなっていました。

また、学校への質問調査では、「言語活動について、国語だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間等を通じて、学校全体として取り組んでいる。」(小学校：市69%、国47%) (中学校：市67%、国42%)

という結果が出ています。

今後も、授業の中で、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりという言語活動を多く取り入れ、主体的で対話的な学習を推進してまいります。

<生活習慣に関する回答状況より>

教科の調査と同時に行われた生活習慣に関する質問の結果から学習につながる回答をいくつかピックアップしました。すると、市では小・中学校ともに、

「普段、1日に2時間以上勉強している。」(小35%、中43%)

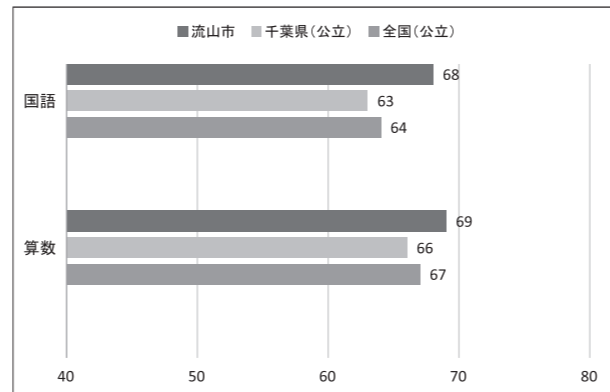
「普段30分以上読書している。」(小43%、中30%)

「読書が好き」(小76%、中78%)

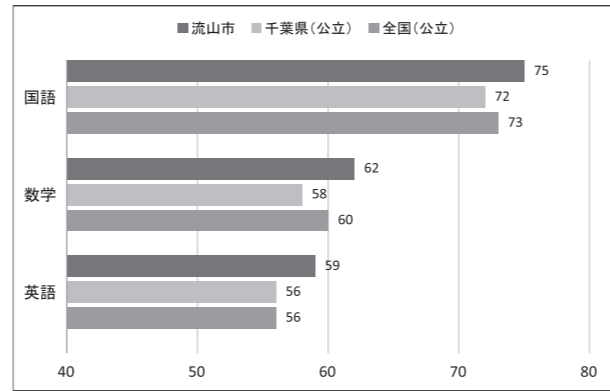
などの回答をした児童生徒の割合が、全国・千葉県平均より高くなっています。進んで学び、読書をするという家庭での習慣が、「学びに向かう力」につながっていると考えます。

流山市では、児童・生徒一人一人へのきめ細やかな学習指導を行うため、独自で「学習サポート教員・指導員」「算数・数学学習指導員」「小学校英語活動指導員」「小中学校ALT」を配置しています。また、学力・学習状況調査については、各学校で調査結果を分析し、授業改善、学習指導に生かしています。これからも、学びに向かう力と自立する子どもを育み、「学力・気力・体力」の流山の教育を推進してまいります。今後とも、保護者の皆様や地域の皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

<平成31年度(令和元年度) 小学校国語、算数 平均正答率>



<平成31年度(令和元年度) 中学校国語、数学、英語 平均正答率>



小学校平均正答率推移(5年間)

	H27	H28	H29	H30	H31
小学校					
全国(公立)	63	64	64	60	65
千葉県(公立)	64	63	64	59	65
流山市教育委員会	65	65	66	63	69

中学校平均正答率推移(5年間)

	H27	H28	H29	H30	H31
中学校					
全国(公立)	60	62	66	63	63
千葉県(公立)	60	62	65	62	62
流山市教育委員会	63	65	68	66	65

令和元年度 葛北支会中学校英語発表会



9月18日(水)に、葛北支会(流山市・野田市)中学校英語発表会が行われました。市内からは各校の代表として37組40名の生徒が参加し、夏休み前から時間をかけて練習した成果を、ステージ上で堂々と発表しました。

結果として、全4部門中、2年生暗唱の部、3年生暗唱の部、スピーチの部の3部門において本市より出場の3名が第1位となり、葛北地区の代表として県大会に出場しました。

スピーチの部に出場した東深井中学校の牧野瑠さんは、ボランティアとして現地の方の力になろうと訪問した被災地で、逆に元気をもらった自身の体験を、聴き手を巻き込みながら感性豊かに表現しました。

<各部門1位>

部門	学年	学校名	氏名	タイトル
暗唱	2年	流山市立東深井中学校	久門明日香	One Cup at a Time
	3年	流山市立おおたかの森中学校	大淵 紫帆	The Spider's Thread
スピーチ	3年	流山市立東深井中学校	牧野 瑠	Caring for others

【つながりのある教育の推進】保育研究会

11月20日(水)、流山市幼児教育支援センター附属幼稚園にて、市内の幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小学校から59名の先生方が参加し、保育研究会が行われました。

今年度は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を小学校につなぐ」をテーマに、幼児教育支援センター附属幼稚園から、投げる力を育てる運動遊びの実践報告がありました。上手に投げられた時に音が鳴るジャベボールを使ったり、様々な種類の的に向かって投げたりと、遊びを通して学ぶ工夫がたくさん紹介されました。

また、じゃんぼ体育クラブ代表の齋藤隆司先生を講師として迎え、附属幼稚園の園児への指導場面や実技を通して、「みんなで遊ぶ楽しさを感じながらの運動遊び」について、研修を深めました。特に、実際の指導場面では、齋藤先生のわくわくするような声掛けと指示で、園児が元気いっぱい体を動かす姿を目の当たりにし、参観していた先生方も「遊び」が「体づくり」につながっていることを実感しているようでした。

講演では、「幼児期に遊びを通して様々な運動を行って体をつくること、遊びによって何が身につくのかを考えることが大切」ということも教えていただき、大変有意義な研究会となりました。



情操教育推進事業

今年度も市内小中学校において、情操教育事業を活用した様々な芸術会が開かれ、音楽鑑賞、観劇、ミュージカル、和太鼓など様々な芸術にふれる機会になりました。打楽器音楽をテーマにした鑑賞会では、授業で馴染みのある打楽器から普段見る機会のない打楽器、アフリカの打楽器、和太鼓の紹介や演奏体験を通して、児童の楽器に対する興味関心が広がる姿が見られました。

今後も様々な芸術に触れる機会をつくり、児童生徒の情操教育を推進してまいります。



わくわくモーモースクール

10月28日、西深井小学校で、全校児童を対象に「わくわくモーモースクール」を実施しました。この授業は、千葉県酪農業協同組合連合会や酪農家の皆さんの協力により、酪農体験を通して、食と命の大切さを学ぶことを目的として行われました。

酪農家さんによる「牧場の話」では、クイズに答えながら、乳牛が一日に出す牛乳の量や牛が食べているエサの種類など、酪農について詳しく学びました。牛とふれあう体験では、哺乳体験や搾乳体験を行い、牛の体の温かさを感じることができました。また、4・5・6年生は生クリームから手づくりのバターを作りました。

児童からは「牛たちや酪農家さんに感謝の気持ちを込めて、牛乳を飲みたいと思った。」「子牛の分の牛乳をありがたく飲みたい。」などの感想がありました。体験後は、牛乳を残さないように考える児童がたくさんいて、酪農家さんの思いが伝わる学習となりました。

